


<b>タイトル (研究概要)</b>	20 「友達列車シュッシュュ」 で友達いっぱい作るんだ	<b>アプローチ (関連する力)</b>		<b>「仲間づくり」</b> ⑨ ⑩	
<b>タイミング (実施時期)</b>	クラス編成してまもなく	<b>活動 場所</b>	教室 体育館	<b>所要 時間</b>	45分
<b>対象 学年</b>	幼・ <b>小低</b> ・小中・小高 中1・中2・中3・高	<b>対象 規模</b>	学級 学年	<b>活動 場面</b>	朝、帰りの会 特別活動
<b>活動の ねらい</b>	<p>&lt;背景&gt;群れあい体験が少ない状況で育った児童が多く、周りの友達のことに関心・関心を示すまで時間がかかる状況から、周りの友達への関心を育む必要がある</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことを積極的に人に伝えたり、友達の紹介をしっかりと聞こうとしたりする</li> <li>・友達との共通することを見つけた喜びを味わう</li> </ul>				
<b>準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介カード（画用紙八つ切り大の段ボールにリボンを付けたもの）</li> <li>・ピアノまたはオルガン ・カラーペン ・クレパス ・シール</li> </ul>				
<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点</b>		<b>使うもの</b>	
<b>1 導入</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の一番好きなものを自己紹介プラカードに絵や文で書く</li> <li>・裏に自分の名前を書く</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学直後のまだ自分の名前が書けない児童には、一緒に書く支援をする</li> <li>・必要に応じてカラーペンを自由に使えるように準備しておく</li> </ul>		自己紹介カード クレパス カラーペン オルガン	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">             たのしくじゃんけんゲームをしながら、たくさんの友達をつくろう           </div>					
<b>2 主活動</b> ○やり方を知る <ul style="list-style-type: none"> <li>・「貨物列車シュッシュュ」の替え歌で、「友達列車シュッシュュ」を歌いながら、「ガッシャン」で出会った友達と手と手を合わせてから、じゃんけんをする</li> <li>・じゃんけんで勝った人は自分の好きなものをプラカードを見せながら紹介する</li> <li>・負けた人はあとから同じように紹介する</li> <li>・出会った相手の名前や好きなものを言って、別れる</li> </ul> ○「友達列車」ゲームをする <ul style="list-style-type: none"> <li>・回数を重ねながら、               <ol style="list-style-type: none"> <li>①自分の名前も付け加える</li> <li>②「よろしくね」と最後に言う</li> <li>③自分も同じだったときは「私も焼き肉好きだよ」などと付け加えて握手するなど話し合いながらルールを加えていく</li> </ol> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・伴奏をしながら、「ガッシャン」を大きな声で歌うようにすると、出会う友達との手と手を強く合わせることができる</li> <li>・なかなか仲間に入れない児童には、一人で相手を捜している児童のところに連れて行く</li> <li>・自分の名前や好きなものを相手が言えたらシールを渡す</li> <li>・シールの数を数えて紹介し合ったことを思い出すようにする</li> <li>・出会った友達の名前を言えた児童や、自分と同じものが好きだったことの喜びを発表できた児童を賞賛する</li> </ul>		  紹介し合った友達の名前やその人の好きなものを言えた児童に付けるシール	
<b>3 ふり返り</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・やってみてどんなことがあったかを思い出し、覚えた人の名前のことや自分と同じものが好きな人のことを発表する</li> </ul>					
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でしっかりと聞いて行動できる自信をもたせるよう配慮する</li> <li>・できたことをしっかりとほめ、わずかでもできたことを認めていく</li> <li>・緊張している子どもには、できることから自信をつけていく経験を積み重ねていく</li> </ul>				

## 実践報告

### <それまでの実態と教師の願い>

入学して三週間。緊張して自分のことを話すのに勇気がいるのは当然であり、緊張をほぐしつつ、学校の生活に慣れる大切な時期であると考えます。

入学式の二日後に、一人一人の自己紹介をしたとき、自分の番がくるまでドキドキして緊張していたものの、終わってしまった子どもの中には、終わったのでもう関係ないから違うことをしてしまう子どもと、反対に自分のドキドキした気持ちがわかるから、順番が来て前に歩く友達に「〇〇ちゃん、がんばれ！」と声をかける子どもの二通りの様子が見られた。まだ、友達の名前すら覚えていない段階であるため、「誰だかわかんないけど、たたかれた！」という言い方で訴えにくる子もいる。朝の健康観察で名前を呼ぶとき、全員で名前を呼んで返事をする形式を始めてみたところである。また、じゃんけん列車などのゲームをすると、はじめから参加しようとせず座ったままの子どもが数人いる。そういう友達に声をかけようとする余裕がまだない状態でもある。それすら気付いていない子も多いのが実情かもしれない。

そこで、友達とかかわることの楽しさを知り、より多くの友達とかかわるための工夫を考えようとするのをねらった活動を仕組んでみた。自分のドキドキ感でいっぱいの子どもが、周りの友達に目を向けられるようにしていく手立てをうち、泣いてばかりの子や仲間に入ろうとしない友達に対して、周りの子がどう対応していくかをクラスの成長の姿ととらえていきたい。

### <子どもの変容>

「ともだちれっしゃ」をやっている中で、「みんなが一列になったらいいな。」という声があった。そこで、「最後のともだちれっしゃは、みんなが一列になろう」という目標をもって行ったところ、見事に一列になった。一列になるためには一人でぼつんとしている子どもがいてはできない。自分から入るようにしたり、また声をかけたりする活動が加わっていく。それはすべて「一列に」なるためである。

自分の紹介だけで満足していた子どもが、「クラスみんなで一列になるんだ！」という具体的な目標をもって達成できた満足感は格別なものだった。「一列になりたい、になりたい、って思いながらやっていたらほんとうに一列のなかよし列車（ともだちれっしゃのこと）になりました。きっと神様が味方してくれたんだと思います。」と発言した女の子の言葉は、視野が広がりつつあることを物語っている。

### <成果>

#### 【プラカードへの記入をしたことによる効果】

まだ、五十音を学習していない時期なので、好きなものを絵で表すことにした。自分の名前は、得意になって書けるようになっていく時期なので、書けた喜びを味わわせる場としても生かすことができた。また、絵を手がか話せたように思う。

#### 【じゃんけん列車】

自分のことを紹介するにあたって、好きなものを伝えることはとても自然な流れだった。なかでも、「〇〇ちゃんと、わたし好きなもの、おんなじだったんだよ！」という声のとびきりうれしそうだった。自己紹介しながら、子どもは自分との共通点を見付けることでより親近感をもつということも活動を活性化させた。

### <さらに広がるバリエーション>

- ・ 自己紹介のあと、相手は、必ず感想や質問を言うことにより対話を成立させる。
- ・ 書いてないことも自己紹介でさらに付け加えて言う。

「その列のみんなが紹介し合うルールにしたらずごく楽しかったよ。」とゲームに工夫を加えて楽しんでいた。

「2組の人ともやったら、もっと長くなってたのしい！」と、長く続けられることのうれしさと興奮していた。

「ぼくの好きなものはこんちゅうだから、こんちゅうのえをかくだ。」と自分の好きなものをどんどん伝えようとしていた。

話せない友達に、絵を見て「お花が好きなんですね。」と助け船を出していた。

「〇〇くんとぼく、ふたりともやきにくがすきなんだよ！おんなじだもんね！」

